



東北連合小学校長会

会報 第170号

発行者 東北連合小学校長会
会長 伊藤 学
事務局 〒010-0065
秋田県秋田市茨島一丁目4-71
秋田市教育研究所内
電話 (018) 827-7521・FAX (018) 827-7521
E-mail: akita-sho-kc@mountain.ocn.ne.jp

会 長 あ い さ つ



東北連合小学校長会 会長 伊藤 学
(秋田県秋田市立築山小学校長)

先週は数年に一度の大寒波に襲われ、除雪や児童の安全な登下校への配慮など忙しく過ごされたのではないのでしょうか。また、日本全国各地で地震が頻発しており、夜間に発生

すれば学校へ駆けつけなければいけないなど気が抜けない毎日が続いております。そのような中、本日は、令和7年度第3回理事会・研修会にご参集いただき、誠にありがとうございます。

さて、今年度は秋田県が東北連小の幹事県として、理事会や専門委員会、研究協議会の企画・運営を担当してまいりました。東北各県の校長会の皆様のご支援、ご協力をいただき、おかげさまで間もなくその任を次の幹事県（令和8年度は宮城県）の理事の皆様を引き継ぐことができそうです。心より感謝申し上げます。

今年度の主要な活動として、7月3日・4日には、秋田市において、第65回東北連合小学校長会研究協議会秋田大会が開催されました。本大会は、活動の方針として特に「学校経営の責任者である校長の果たすべき役割と指導性の在り方を追求していく」ことに主眼を置き推進してまいりました。2日目の分科会では、各研究課題に即した素晴らしい実践発表と、各地区・学校が抱える諸課題の解決に向けた活発で有意義な情報交換がなされました。

本日の第3回となる理事会・研修会をはじめ、各専門委員会も充実した活動を進めることができました。今年度は、会場としてホテルを予定していたところを、青森県のやり方を参考にし、公共施設を使用するなど支出をなるべく抑える努力をしてまいりました。各専門委員の

皆様には、提案事項に関する協議や有意義な情報交換を行うことができましたことに厚く御礼申し上げます。

私たち校長会が直面している課題として、教員の人材確保と資質能力の向上、不登校児童数の増加、複雑で多様化する生徒指導上の問題、働き方改革の推進などが叫ばれて久しい状況です。昨年の6月に改正給特法が決議され、我々の処遇改善が図られたのは朗報ではありますが、学校教育の充実・発展に欠かせない教員を取り巻く環境は依然として厳しく、持続可能な指導・運営体制の構築に向け、教員の命と健康を守り、教職の魅力を向上させ、優れた人材を確保することが急務となっています。これら様々な課題について、東北連小の理事会や各委員会で意見交換され、共有できた多くの情報は、全連小の要望活動等へと確実につながっております。今後も校長会としてのつながりを大切にし、東北各県のさらなる教育の充実向上を期して、国や県に対するアクションを継続していく必要があると考えます。

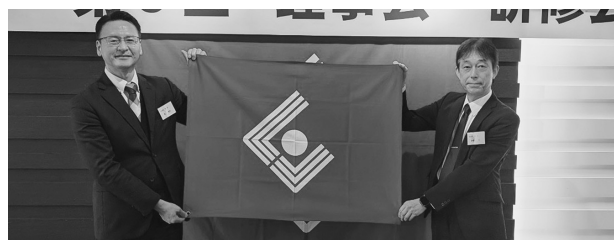
また、本日は、令和8年度開催の宮城大会に向けて、大会要項・収録のデータ化など、持続可能な東北連小研究協議会の形を模索する有意義な提案をいただいております。さらに、令和9年度開催の全国大会も兼ねている福島大会においても、着々と準備が進められています。

本日は、令和7年度の振り返りや報告、そして来年度以降の重要な活動計画について、大切な案件がたくさんございます。また、研修として、「教職のキャリアステージに応じた受講奨励について」の具体的な取組に関する情報交換を行ってまいります。皆様からの忌憚のないご意見を頂戴し、協議を進めて参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

東北連合小学校長会 事務局引継

第3回理事会・研修会において、伊藤会長（秋田県）から泉副会長（宮城県）に東北連合小学校長会旗の引継が行われました。

理事会・研修会後には、秋田県から宮城県へ東北連合小学校長会の事務引継が行われ、伊藤会長、次期会長からの挨拶の後、担当者ごとに事業概要の説明や諸帳簿等の引継が行われました。



報 告

令和8年度東北連合小学校長会 活動の方針・重点(案)

1 全国連合小学校長会

・常任理事会

2 東北連合小学校長会

(1) 東北連小秋田大会

・反省
・収支決算報告

第 65 回東北連小大会決算報告(見込)

収 入 総 額	7,442,286 円
支 出 総 額	7,442,286 円
差 引 残 額	0 円

(2) 令和7年度活動報告

(3) 対策委員会報告

(4) 教育課程委員会報告

(5) 令和7年度会計収支決算(見込)

収 入 総 額	5,385,899 円
支 出 総 額	3,148,368 円
差 引 残 額	2,237,531 円

(6) 令和7年度末退会理事

(7) 令和8年度会員数・負担金(令和7年2月6日現在)

令和8年度会員数調査

県名	単独校 校長数	前年度比	併任等 校長数	前年度比	合計	前年度比
青森	224	-6	14	+1	238	-5
岩手	248	-5	7	0	255	-5
宮城	330	-3	11	0	341	-3
秋田	157	-4	8	0	165	-4
山形	212	-2	7	0	219	-2
福島	355	-2	17	+1	372	-1
計	1,526	-22	64	2	1,590	-20

令和8年度各県負担金

県名	単独校校長数	併任等負担金	合計
青森	560,000	17,500	577,500
岩手	620,000	8,750	628,750
宮城	825,000	13,750	838,750
秋田	392,500	10,000	402,500
山形	530,000	8,750	538,750
福島	887,500	21,250	908,750
計	3,815,000	80,000	3,895,000
前年度比	719,000	18,000	737,000

各県負担金算出=単独校校長数×2,500+併任等校長数×1,250

令和8年度 全連小組織各県分担

役員・各種研修委員会		令和7年度	令和8年度
役員	常 任 理 事	秋田	福島
	監 事	宮城	岩手
基金管理運営委員会	宣 言 文 起 草 委 員 会	岩手	山形
	宣 言 文 審 議 委 員 会	秋田	宮城
大会委員会	教職員定数改善等委員会	秋田	福島
	教育環境整備等委員会	福島	岩手
	教育課題委員会	青森	宮城
	教育課程委員会	山形	青森
	人材育成委員会	福島	福島
	人権教育委員会	青森	秋田
	特別支援教育委員会	岩手	山形
	健全育成委員会	宮城	青森
	働き方・処遇改善委員会	山形	秋田
		秋田	宮城

1 活動の方針

東北連合小学校長会は、「東北は一つ」を合言葉に、各県小学校長会の連携の下、東北の歴史と風土に根差した小学校教育の充実・発展に努めてきた。また、平成23年に発生した東日本大震災とそれに伴う原子力発電所事故、令和2年からのコロナ禍を経験し、今、改めて東北に生きる人々の「絆」の重要性と「いのち」の尊厳について再確認し、深く学びを共有してきた。

今日、AIをはじめ先端技術による情報化やグローバル化等、急速な変化の過程にある。それに伴い、いじめ問題や不登校等の課題、情報モラルの欠如や規範意識の低下等、子どもを取り巻く環境は著しく変化を続け、先行き不透明な時代となっている。このような状況の中、人や社会と関わることを通して集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら、よりよい生き方を主体的に求めさせ、社会に貢献する人材が求められている。

そのために私たち東北連合小学校長会は、こうした現状を受け止め、学校と家庭・地域社会が一層の連携・協働を深め、子どもたちが、未来の創り手となるために必要な資質・能力を獲得できるように、「全ての子供たちの学びを保証し、自ら未来を拓き、ともに生きる豊かな社会を創る日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を主題に、学校経営の責任者である校長の果たすべき役割と指導の在り方を追求していく。

2 活動の重点

(1) 各県小学校長会との連携の強化

- ① 第66回東北連合小学校長会研究協議会宮城大会の開催
- ② 災害や感染症をはじめとした多様な危機への対応と様々な教育改革の推進等、学校経営の今日的課題に対する各県の取組についての情報交換
- ③ 各県事務局相互の連携と協調による東北連合小学校長会の効果的な運営の推進

(2) 対策活動の推進

- ① 各県における教職員の配置や処遇改善、働き方改革、危機対応及び教育条件の整備等に関する対策活動や要望活動についての情報交換

(3) 調査研究活動の推進

- ① 各県の創意ある教育課程の編成・実施、教職員の資質能力の向上、新たな研修制度への対応、人材の育成、学校評価等に関する研究活動についての情報交換
- ② 東北連合小学校長会研究協議会の研修内容、運営等に関する連絡・調整

(4) 関係機関との連携の推進

- ① 全国連合小学校長会との連携・協力体制の強化
- ② 東北地区小学校長会等との連携・協調の推進

令和8年度 東北連合小学校長会 活動計画(案)

I 理事会・専門委員会

1 開催準備

内容	担当
①会場予約 ②案内状発送 ③出欠確認 ④旅費、会場費等準備 ⑤理事会の報告・協議内容検討、資料準備 ⑥各担当者への資料作成依頼	幹事長 事務局

※理事会出席者は、各県理事2名(12名)。加えて会長は幹事長、幹事、事務局員。

2 理事会・研修会

※理事会・研修会会場は、第1回、第3回はホテル白萩、第2回は東京エレクトロンホール宮城の予定。

会議名	会次第(予定)	担当	備考
第1回理事会 5月15日(金) 13:30 ~ 16:00	1 開会	進行: 幹事長	
	2 出席者自己紹介		
	3 理事会		
	(1) 報告 ①令和7年度末退職理事 ②令和8年度各県会員数 ③全国運営準備金の納入額について	幹事長	
	(2) 協議 ①役員選出 ・会長あいさつ(幹事委嘱) ②令和7年度活動・会計決算報告 ③令和8年度活動の方針・重点(案) ④令和8年度活動計画(案) 会計収支予算書(案) ⑤研修計画(案)	議長: 副会長 幹事長 会長 秋田県 会長 総務幹事 経理幹事 幹事長	秋田県理事 秋田県理事
4 研修会 「自然災害・動物等被害を想定した安全対策について」	宮城県 福島県 岩手県	大会実行委員長 福島県理事 岩手県理事	
5 閉会	福島県 進行: 幹事長 担当: 秋田県 副会長	福島県理事 秋田県理事 福島県理事	
感謝の会	※感謝状の贈呈	進行: 幹事長	

第3回理事会 2月5日(金) 13:30 ~ 16:00	1 開会	進行: 幹事長 副会長	福島県理事
	2 会長あいさつ		
	3 報告 (1) 全国連合小学校長会関係 (2) 東北連合小学校長会関係 ①専門委員会 ②令和8年度会計報告(決算見込) ③令和9年度県別会員数、負担金 ④宮城大会収支決算	全連小常任理事 会長 研修幹事・対策幹事 経理幹事 総務幹事 幹事長	福島県理事
	4 協議 (1) 令和9年度の活動案について ①活動の方針・重点(案) ②年間活動計画(案) ③予算(案) (2) 令和9年度全連小福島大会開催計画(案) (3) 令和10年度岩手大会 (4) 令和9年度研修課題(案) (5) 令和11年度山形大会の構想 (6) その他	議長: 副会長 福島県 福島県 福島県 福島県 岩手県 福島県作成 山形県	秋田県理事 福島県理事 福島県理事 福島県理事 福島県理事 岩手県理事 山形県理事
	5 研修会 「キャリアステージに合わせた職員育成について」	進行: 幹事長 担当: 青森県	青森県理事
	6 諸連絡	幹事長 副会長	福島県理事
	7 閉会		

事務引継ぎ会 2月5日(金) 16:10 ~ 16:40	1 開会	進行: 幹事長	宮城県 福島県
	2 会長あいさつ	宮城県	
	3 次期会長県会長あいさつ	福島県	
	4 事務引き継ぎ (1) 全体に関わる事項 ①年間活動計画 ②今年度変更になった事項 (2) 引き継ぎ ①理事 ②事務局	幹事長	宮城県会長 福島県会長
	5 閉会	両県理事 両県事務局	宮城県理事

※臨時会長会 開催予定日…令和8年10月23日(金)
・東北連小諸活動等について緊急に検討する事案が出てきた場合、臨時会長会を招集する。

3 専門委員会・研修会

(1) 教育課程委員会

第2回理事会 7月2日(木) 9:00 ~ 11:00	1 開会	進行: 幹事長 副会長	秋田県理事
	2 会長あいさつ		
	3 報告 (1) 全国連合小学校長会関係 (2) 東北連合小学校長会関係 (3) 専門委員会	全連小常任理事 会長 研修幹事	福島県理事
	4 協議 (1) 東北連小宮城大会の最終確認 ①運営概要 ②運営要項 ③大会役割確認 ④その他 (2) 令和9年度全連小福島大会の構想(会報172号作成資料) (3) 令和10年度岩手大会 (4) その他	議長: 副会長 宮城県 福島県 岩手県	福島県理事 大会実行委員長 福島県理事 岩手県理事
	5 研修会 「不登校対応に係る取組について」	進行: 幹事長 担当: 岩手県	岩手県理事
	6 諸連絡		
	7 閉会	副会長	秋田県理事
※第3回理事会に向けた留意点 ・宮城大会の収支決算については、第3回理事会で承認手続きをとる。 ・令和9年度の活動の方針・重点(案)、活動計画(案)、研修課題を全連小活動計画が示された後、各県事務局に送信する。→ 福島県が作成			

回	期日	会場	主な内容	備考
1	令和8年 6月9日(火) 11:00 ~ 15:00	仙台市 「ホテル白萩」	・組織の確立 ・活動計画 ・各県研究進捗状況等報告 ・宮城大会について ・全連小福島大会について ・岩手大会について	
2	令和8年 10月7日(水) 11:00 ~ 15:00	仙台市 「ホテル白萩」	・各県活動状況の報告 ・活動の反省と次年度計画 ・宮城大会の反省 ・全連小福島大会について ・岩手大会について ・山形大会について ・専門部引き継ぎ	

(2) 対策委員会

回	期 日	会 場	主な内容	備 考
1	令和8年 10月7日(水) 11:00～15:00	仙台市 「ホテル白萩」	・組織の確立 ・対策活動、要望活動 報告(教職員の配置、 処遇改善、教育条件 等の整備) ・専門部引き継ぎ	

※教育課程・対策委員会の記録をA4判2ページ程度にまとめ、その後各県事務局に送信する。各県事務局は、県下会員に周知する。

II 研修会

○ 理事会、専門委員会の開催に合わせ、テーマを設定し、各県からの話題提供と情報交換を行う。

III 第66回東北連合小学校長会研究協議会宮城大会

- 1 期 日 令和8年7月2日(木)～3日(金)
- 2 会 場 全体会場：東京エレクトロンホール
宮城(開会行事、記念講演、閉会行事)
- 3 大会主題 「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな
社会を創る日本人の育成を目指す
小学校教育の推進」
- 4 副 主 題 「夢をはぐくみ 志に高め ともに
よりよい未来を創造する子どもを育て
る学校経営」
- 5 記念講演 ◇演題 「未定」
◇講師 ロバート キャンベル 氏
(文学博士、早稲田大学特命教授、
早稲田大学国際文学館顧問、東京大
学名誉教授、せんだいメディアテーク
館長)

IV 事務担当者会

- 1 期 日 令和8年5月15日(金)
11:30～13:00
- 2 会 場 仙台市「ホテル白萩」
- 3 内 容 各県事務局・理事等の確認、事務処
理上の問題点 等

V 会計監査

- 1 期 日 令和9年3月3日(水)
13:30～16:00
- 2 会 場 仙台市「ホテル白萩」

VI 広報活動

- 1 会報(第171号)8ページ
- (1) 発行時期 第1回理事会終了後(6月頃)
- (2) 内 容 ①新会長挨拶、理事会概略報告
②新役員紹介、写真

- ③監事、専門部員、研修課題
- ④前年度活動報告
- ⑤前年度会計収支決算報告
- ⑥活動の方針、重点、活動計画
- ⑦会計収支予算、県別学校数
- ⑧退職理事、全連小役員、各県事務局

2 会報(第172号)10ページ

- (1) 発行時期 11月頃
- (2) 内 容 次年度の全連小・東北連小大会の一
次案内
※会報データ作成費は東北連小予算
から支出するが、担当は次年度の
大会開催県(福島県)とする。

3 会報(第173号)6ページ

- (1) 発行時期 第3回理事会終了後(2月末頃)
- (2) 内 容 ①会長挨拶、理事会概略報告
②令和9年度活動方針、重点
③令和9年度事業計画案、会計予算案
④令和9年度研修課題案、分科会発表
表割当、全連小組織各県分担案
⑤文部科学大臣表彰者紹介
⑥各県教育課題のまとめ(青森、岩手、
宮城、秋田、山形、福島)

4 その他

- ・東北連小宮城大会の集録は、令和8年11月下旬を
目途として発行作業にあたる。
- ・理事会報告、委員会報告は、メールにて各県事務
局へ送信する。

VII その他

- 第79回全国連合小学校長会研究協議会福島大会
第67回東北連合小学校長会研究協議会福島大会に
向けて
- | | |
|--------|--|
| 令和8年6月 | 第1回教育課程委員会にて「福島大会
分科会協議題、課題、分科会発表割当」
の確認(R8.1.13 福島県事務局より) |
| 7月 | 第2回理事会にて「福島大会開催要項」
の検討 |
| 10月 | 第2回教育課程委員会にて「福島大会
開催要項」の確認 |
| 11月 | 会報(第172号)にて「福島大会開催
要項」を全会員に配付 |
| 令和9年3月 | 大会案内、宿泊案内、参加申込書等を
各県へ送付 |

令和 8 年度 会計収支予算書 (案)

1. 収入の部

収入総額 6,095,200 円
支出総額 6,095,200 円
差引残高 0 円

Table with 5 columns: 項目, 本年度予算額, 前年度予算額, 比較, 摘要. Rows include 1 負担金, 2 雑収入, 3 繰越金, and 合計.

2. 支出の部

Table with 5 columns: 項目, 本年度予算額, 前年度予算額, 比較, 摘要. Rows include 1 会議費, 2 事務局費, 3 活動費, 4 運営準備金への繰入金, 5 予備費, and 合計.

令和 8 年度 東北連合小学校長会研修課題 (案)

Table with 2 columns: 理事会・研修会開催日, 内容. Rows include 第1回, 第2回, and 第3回研修会 details.

分科会研究発表 (担当県割当)
令和 8 年度 第 66 回東北連合小学校長会研究協議会宮城大会
第 46 回宮城県小学校長会研究協議会東部・本吉大会
第 46 回仙台市小学校長会研究協議会

Table with 5 columns: 領域, 分科会, 研究課題, 研究の視点, 担当県. Rows include I 学校経営, II 教育課程, III 指導・育成, IV 危機管理, V 教育課題.

祝 令和 7 年度文部科学大臣表彰
Table with 3 columns: 県名, 学校名, 氏名. Rows list recipients from Aomori, Iwate, Yamagata, and Fukushima.

各県教育活動のまとめ

青 森

「郷土に誇りを持ち、新しい時代を主体的に切り拓く 子どもの育成を目指す学校経営と校長の在り方」

本県では、「教育は人づくり」という視点に立ち、今年度からは上記を副主題として設定した。青森県小学校長会の活動方針に基づき、創意と活力ある学校経営に資することを目的とし、計画的な研究活動を推進するために、次の2点に重点をおいて取り組んできた。

1 5つの研究領域に基づいて、各地区が下記の10分科会で、学校経営及び日常の教育活動を通して研究する。

- (1) 令和7年度の研究主題の共通理解
- (2) 領域ごとの課題・趣旨・視点に基づいた研究の推進
 - 1 経営、組織・運営（八戸市）
 - 2 評価・改善（南地区）
 - 3 知性・創造性（弘前地区）
 - 4 豊かな人間性（青森市）
 - 5 健やかな体（上北地区）
 - 6 研究・研修（弘前地区）
 - 7 学校安全（青森市）
 - 8 危機対応（下北）
 - 9 自立と社会性（東津軽郡）
 - 10 社会との連携・協働（西北）

2 実践事例を紹介し、研究の推進を図る。

青森県小学校長会広報部と連携し、県内において、各種研究指定を受けるなどの特色ある教育活動に取り組んでいる学校の事例を収集し、紹介した。

- (1) 「健康教育」（弘前市教育委員会指定）
…弘前市立和徳小学校
- (2) 「JAMSTECとの連携によるSTEAM教育」（むつ市教育委員会指定）
…むつ市立関根小学校
- (3) 「主体的に課題に向き合い、対話によって考えを深める子の育成～見通しをもたせるための授業展開の工夫を通して～」（三戸郡教育振興会委託）
…階上町立道仏小学校

岩 手

「郷土を愛し 主体的・協動的に学び 夢と未来を拓く子どもを育てる学校経営の推進」

本県では、上記研究主題のもと、次の2つの研究活動に取り組んできた。

1 地区校長会の取組

東北連小の研究課題と視点に沿って、県内13地区の校長会の割当により研究を進めてきた。各地区では、校長会の研修会等の場で、取組内容や研究の成果・課題を発表し、研究内容を共有した。また、来年度に行われる岩手県小・中学校長研究大会和賀大会の実行委員会を立ち上げ、担当地区を中心として計画的に準備を進めている。

2 岩手県小学校長会調査研究の取組

今年度は新たに「学びの専門職としての『働きやすさ』と『働きがい』の両立に向けた校長のマネジメントの在り方」を研究主題として、調査研究活動を行った。研究一年次の今年度は、「『働きやすさ』に係る現状及び今後の工夫・改善点等について」「『働きがい』に係

る現状及び今後の工夫・改善点等について」の2つの視点に沿って、全県259校へアンケート調査を実施した。アンケート調査はGoogleフォームで行い、調査結果の分析の効率化を図った。

今年度のまとめとして、13地区校長会の代表から構成する研修担当者の合同会議において、調査結果について報告した。また、各地区研究の進捗状況について情報交流を行った。これらを踏まえ、来年度は、分析と考察を加えた調査研究報告書を作成し、和賀大会で発表することとしている。この研究成果を各校の校内研修の工夫・改善に生かし、学校教育の質の向上を目指していく。

宮 城

「ふるさとを愛し 志をもって自ら新しい社会を 切り拓く子どもを育てる学校経営の推進」

1 宮城県と仙台市の研究推進のために

毎年9月に開催する県市研修部連絡協議会では、県内の教員が直面する課題や教育の質向上に向けた最新の知見を共有し、研究の取組状況や東北連小研究協議会の情報交換を行うことで、県全体の教育力向上を図っている。

2 宮城県と仙台市の研究推進状況

【宮城県】領域研究の推進としては、東北連小秋田大会第2分科会において、東部地区が「全職員が当事者として学校運営に参画する組織構築のための学校評価の在り方と教育活動」について、第7分科会においては、仙台南地区が「教職員の高い危機管理能力の育成と未然防止に向けた体制づくり」について発表した。県小学校長会研修会では、県教育庁教職員課長を招き、学校を取り巻く様々な法規等を正しく理解し、担任配置や働き方改革、職員監督等の学校経営に生かすことの重要性を学んだ。教育課程研究及び生徒指導研究の推進については、6地区から特色ある実践事例を選定し、「実践事例集」として会員に配付した。

【仙台市】研究部は三つの委員会で構成され、次年度の宮城大会での発表に向けてそれぞれ準備を進めている。学校課題委員会は、「知性・創造性を育むカリキュラムマネジメントにおける校長の役割」をテーマに、研究協議会では宮城教育大学教職大学院猪股亮文氏と3校の校長によるパネルディスカッションを行った。領域別研究委員会は、研究主題「学校運営への参画意識の醸成と向上を目指した研修の推進と職員の育成」の下、事例校への取材活動とその結果を踏まえた実践研究に取り組んでいる。指定都市問題研究委員会は、静岡市で研究協議会が行われ、「地域防災の拠点としての学校づくり」と題し、地域・学校・行政が協働する避難所運営や、自助・共助の力を育む取組について発表した。

秋 田

「ふるさとを愛し 志をもって 自ら新しい社会を
切り拓く子どもを育てる学校経営の推進」

1 第65回東北連合小学校長会研究協議会秋田大会

本県では、今年度、「第65回東北連合小学校長会研究協議会秋田大会兼令和7年度秋田県小学校長会研究大会」を実施した。5つの研究領域に基づき、県内9地区が10分科会の視点2を担当した。協議の柱を「各内容の推進に係る具体的方策」と「校長の役割」とし、これまで進めてきた研究について発表する機会を得た。各研究協議会では、各県の皆様から貴重なご意見をいただき、成果と課題を確認することができた。

2 喫緊の教育課題に関する研修会の実施

県校長会定例理事会では、会議後の研修会において、喫緊の教育課題への対応について情報交換を行い、成果や課題を確認している。今年度は「児童の人間関係づくりに係る取組」「ICTの効果的活用とその課題」「教職のキャリアステージに応じた受講奨励」等について情報交換を行った。全県からの情報が集まり、有意義な研修となっている。

3 令和8年度秋田県小・中学校長研究大会に向けて

毎年8月には、本県小・中学校長が一堂に会し、実践を共有する場として、小中合同の研究協議会を開催している。来年度大会に向けて、1月には、研究発表および分科会協議の一層の充実を図るべく、県研究委員と提案予定者による「事前研修会」を行っている。

山 形

「ウェルビーイングを目指し、一人ひとりが可能性に挑戦する学校経営の推進」

1 特色ある学校づくりと教職員の資質・能力の向上を目指した学校経営の推進

学び続ける校長として、研究協議会、理事会、各専門委員会において、研修や各地区間の情報交換を充実させ、学校経営の諸課題解決に努めた。

2 第79回山形県連合小学校長会研究協議会（西村山地区主管）の実施（令和7年6月13日）

参集型で一日開催し、午前は佐藤繊維株式会社社長による講演、午後の分科会は県内全域の会員同士が学び合う貴重な研修の機会となった。

3 課題解決に向けた専門委員会活動

- (1) 対策委員会…県教育局幹部職員との経営懇談会の開催や会員の総意としての「お願い（要望書）」の作成と提出、校長が今取り組むべき喫緊の課題を「重点」としてまとめ、全会員に発出した。
- (2) 研修委員会…研究紀要第69集を編集・発刊するとともに、第79回山形県連合小学校長会研究協議会に

向けた運営協力を行った。また喫緊の課題とその解決に向けた各地区の取組について調査研究を実施した。

- (3) 生徒指導委員会…生徒指導上の諸問題についてアンケートを実施し、分析と考察を行った。また山形駅前カウンセリングオフィス所長を講師に招いた研修会の開催や生徒指導四者連絡協議会への参加を通して、他組織との連携を図った。

4 連携・交流を図る活動の推進

研究協議会や県教委との経営懇談会、関係者との連携により得たものを県内各地区において経営に生かした。

福 島

「福島に誇りをもち多様な他者と協働しながら持続可能な社会を創る子どもを育てる学校経営と校長の在り方」

1 第54回福島県小学校長会研究協議会安達大会

2年次研究のまとめとなる今年度は、8月6日から2日間、二本松市民会館等において県内各支会より374名の会員が参加し、研究協議会を実施した。震災後14年が経過し復興が進む一方で、学校統廃合などの新たな課題に直面している今、地域に根差した教育の実現に向けて着実に歩みを進める決意を新たにされた。記念講演では前二本松市教育委員会教育長の丹野学様より、震災の影響を踏まえた校長職の今までとこれからのについて、貴重なご講話をいただいた。研究協議会では、東北連小の構成に基づく5領域10分科会20視点について、研究実践事例をもとに真剣な協議がなされた。特に、思考ツールを活用した話し合いでは、課題解決のために校長が行う具体的な働きかけについて、その効果や難易度等を検討した。協議内容や感想はフォームにより集計し、テキストマイニングの結果を参考に、成果と今後の研究実践方向をまとめた。本大会は、校長の識見を高め学校経営の充実に資する大きな成果を収めることができた。

2 令和9年度全連小福島大会に向けて

全連小の研究主題に沿って、研究副主題を協議するとともに、13分科会26視点による「研究の手引き」の作成を進めてきた。福島大会における研究協議の充実を目指し、来年度発足する大会実行委員会と共に福島から全国へ発信する準備を確実に進めているところである。ふるさとに誇りをもち多様な他者と協働しながら、しなやかにたくましく未来を切り拓く子どもを育てるため、今後も、研究と実践を深めていく。